

## 日本陸上競技連盟からのお知らせ

## 目次

## ■活動報告

## 日清食品カップ第39回全国小学生陸上競技交流大会 報告

日清食品カップ第39回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生646名および指導者182名、支援コーチ167名の計995名が集まり、2023年9月16日(土)、17日(日)、18日(月)の3日間の日程で実施いたしました。

## みんなでつなごうリレーフェスティバル2023(リレフェス)大会/SDGs 報告

リレフェスの世界観は、“みんなで創る”ことを意識しています。種目を公募してみたり、日本代表選手にサポートの依頼をしたり、昨年のリレフェス後に実施したアンケート結果からも、たくさんのアイデアをいただきました。それら一つ一つの声と、競技会ではなくフェスティバルなんだ!という感覚と、参加者の“笑顔”が融合し、よりリレフェスらしい温かな世界観が醸成された2年目でした。

リレフェスの中で、今年も「3R(スリーアール)のバトンプロジェクト」を実施いたしました。

## 第86回理事会 報告

2023年9月20日(水)に第86回理事会をWEB会議システムを用いて開催いたしました。

## ■大会観戦ガイド

福岡国際マラソン2023 兼 マラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ ～パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会～

第107回日本陸上競技選手権大会・10000m

兼 パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会

兼 メドゥリン 2024 世界クロスカントリー選手権大会日本代表選手選考競技会

## ■事務局からのお知らせ

日本選手権10000m大会キービジュアル・特設サイト公開!～12月10日は「最高の25周」に向けて全員が「Challenge」する1日へ～

日本選手権10000mチケットページを公開しました!

## information

・個人情報の共同利用について  
<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/>



・日本陸連登録料の設定について  
<https://www.jaaf.or.jp/about/fee/>



・WRK対象競技会/広告規程について  
<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



・陸上競技場、長距離競走路の認定について  
<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



・代表選手派遣大会選考要項 2023年度  
<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15943/>



・代表選手派遣大会選考要項 2024年度  
<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/>



・代表選手派遣大会選考要項 2025年度  
<https://www.jaaf.or.jp/news/article/17671/>



・アンチドーピング/鉄剤注射の防止  
<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



# 日清食品カップ第39回全国小学生陸上競技交流大会 報告

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会 ディレクター 岸 政智

日清食品カップ第39回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生646名および指導者182名、支援コーチ167名の計995名が集まり、2023年9月16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)の3日間の日程で実施いたしました。今年度は新型コロナウイルス感染症による制限が緩和された中での開催となりました。横浜市の日産スタジアムを主会場とし、新横浜プリンスホテル、新横浜フジビューホテルを選手村として、今までの安全安心を基本とした大会運営を念頭におきつつ、40回大会に向けて新たな試みを模索する交流大会としました。また昨年同様に監督会議については、9月11日(月)にオンラインで事前開催し、指導者研修会については、大会1日目に集合研修として実施しました。加えて、本大会から指導者が情報交換をできる場として新たに指導者交流会を、大会2日目の競技会終了後に開催しました。日清食品カップ第39回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。

## 第1日目(9月16日・土曜日)～前日フリー練習・指導者研修会・カップヌードルミュージアム 横浜見学～

1日目は、選手団の研修として、カップヌードルミュージアム 横浜(安藤百福発明記念館)の見学を実施し、競技場に到着した選手団から順次、フリー練習と集合写真の撮影を行いました。また、指導者研修会は、「個性を活かすためのスピード・リズム・タイム」をテーマとして三部構成で行い、85名の指導者が参加されました。一つ目は、ファシリテーターに指導者養成委員会の山本浩委員長、ゲストに戸邊直人選手(JAL)、君野貴弘さん(日本陸上競技連盟 指導者養成委員)を招き、走高跳の基本的な技術習得やパフォーマンス向上、競技会や日常に関する話題など幅広くトークが展開されました。二つ目は、私が講師として、小学生年代のコンバインド種目の導入の背景と期待される効果などについて説明しました。また、コンバインド種目の普及や競技者育成についての意見交換をグループワークとして行い、代表していくつかのグループに発表をしていただきました。三つ目は、古磯真弥さん(アシックスジャパン株式会社)による、障害予防の観点からのシューズ選びです。近年、様々な高性能なシューズが販売されている中、小学生年代に適したシューズはどのような観点で選ぶべきかなどについて説明がされました。

特に印象的だった場面としては、走高跳の講師のお二人による、他者紹介、踏切のタイプの違いについての意見交換や助走のアプローチ方法、はさみ跳び(小学生のフォーム)のポイントなど様々な視点で走高跳について語ってもらい、小学生年代の指導者の皆さんにとって色濃いセッションだったのではないかと思います。本研修会では、お二人の意外な側面にも触れることができ、参加の指導者から驚嘆の声や笑いが出るなど、会場を沸かせてくれました。さらに最後は、講

師のお二人が講習中に回答に用いたフリップ(直筆サインも添えて)を抽選で指導者にプレゼントするサプライズもありました。

## 第2日目(9月17日・日曜日)～開会式・競技会・表彰式・フレンドシップパーティー～

開会式では、4年ぶりに入場行進が復活しました。競技場メインスタンド前で行われた47都道府県の選手・指導者による堂々の入場行進はとても壮観でした。

整列後、開会のファンファーレ、そしてアナウンスの声とともに開会式が始まりました。主催者を代表して本連盟の尾縣貢会長が挨拶を行い、後援・協賛社を代表して公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団理事長、日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEOである安藤宏基様よりご挨拶をいただきました。その後、歓迎の言葉を横浜市の山中竹春市長よりいただき、続いて選手を代表して、埼玉県代表の山田星彰さん、川山葵さんの2名による力強い選手宣誓が行われました。今回、宣誓の受け取りは、宇宙飛行士の野口聡一さん(カップヌードルミュージアム 名誉館長)が担い、選手団に向けた励ましのメッセージをお話いただきました。

また、大会を主管いただく神奈川陸上競技協会の皆様には、事前準備から当日の競技運営まで多大な協力をいただいたことに感謝し、同協会の吉田秀志会長、松尾正弘副会長、西館健吾副会長を代表とし、すべての競技役員、及び補助員の方に謝意をお伝えしました。

競技会は、9時30分、女子コンバインドAの80mハードルから開始され、小学生アスリートの真剣な競技が展開されました。9月に入っても35度近くの気温が続く中、選手達の体調が懸念されましたが、大きな事故等も無く、5名の選手が大会記録を更新しました。6年女子100mで1名、コンバインド種目は、新種目として導入して5年目になりましたが、男女で計4名がこれまでの最高記録を更新し大会に華を添えました。

その盛り上がったコンバインドでは、ナビゲーター(進行役)として、2名のアスリートに参加いただきました。男子十種競技の中村明彦選手(スズキ)、女子七種競技の熱田心選手(岡山陸協)です。お二人には、グランドレベルでその種目のポイントや心構えなどを解説していただき、選手たちの近くで会話や応援をするなど、交流をしていただきました。選手達はトップアスリートとの突然の出会いに初めは戸惑いを感じながらも、次第に打ち解け、最後は直接質問をしたりアドバイスをもらうなどしていました。

競技会の模様は、NHK Eテレで大会当日の9月17日(日)14時30分から16時00分まで、生放送で放映されました。競技結果は、本連盟オフィシャルサイトにてご覧ください。

各種目の表彰式ではプレゼンターとして、男子短距離の飯塚翔太選手（ミズノ）、女子100mハードル日本記録保持者の福部真子選手（日本建設工業）、同じく女子100mハードルの寺田明日香選手（ジャパングリエイトグループ）、男子走高跳の戸邊直人選手が、入賞者に賞状・メダル・楯を授与してくれました。憧れのオリンピックから表彰を受ける小学生たちはとても嬉しそうな様子でした。中村選手と熱田選手にもナビゲーターとしての活動の合間にプレゼンターをしていただきました。

また競技場の西ゲートでは、キッズデカスロンチャレンジ（デカチャレ）を実施しました。デカチャレは、WA（世界陸連）が子どもたちのフィジカルリテラシーの向上を目的として推奨しているプログラム「キッズアスレティックス」の一環として実施しています。このプログラムは、陸上や運動が好きな子どもたち、または陸上を経験したことのない子どもたちが、「走る」「跳ぶ」「投げる」というスポーツの原点に触れることを主眼に安全管理や指導を大切にしながら本連盟の主催大会等で展開しています。特に今回、選手はもちろんですが、選手の兄弟やチームメイトにも気軽に参加できるように、日清食品カップ特別仕様として、この大会ならではの装飾や参加賞などを用意して、特別な空間を創出しました。競技場外で実施することにより、より多くの人々の目に触れ、興味をもって参加してもらうことができ、合計291名の参加がありました。

すべての競技と表彰式終了後には、一緒に競技をしたお互いを称え、交流を深めるプログラム「フレンドシップパーティー」を行いました。今回は2019年以来となる、トップアスリート達のデモンストレーションや、グランドレベルで選手同士が交流できる場を提供することができました。デモンストレーションでは、小学生選手たちの目の前でパフォーマンスに加え、トップアスリートが動きのポイントを説明してくれます。その一挙手一投足をその目で見て、肌で感じてもらい、将来に向けて夢や想像を膨らませ欲しいという願いもあります。きっと選手達には良い思い出として残っていることでしょう。

また昨年に続き、47都道府県大会に参加した小学5・6年生から小学生リポーターを募集しました。たくさんの応募の中から選ばれた6名のリポーターが大会に参加し、競技の合間やフレンドシップパーティーで、小学生選手の目線でアスリート達に質問を投げかけてくれました。アスリート達は質問に対して、自身のポイントの説明やルーティン、緊張のほぐし方や動きについて身振り手振りでわかりやすく解説してくれました。小学生リポーターにも出場選手たちにもとても貴重な体験となりました。なお、小学生リポーターは、フレンドシップパーティー以外にも、SNSで大会の様子をレポートするなど、大会を盛り上げてくれました。

最後にゲストアスリートから大会の感想や小学生へのメッセージを話してもらい、正面スタンドへと続く階段で小学生の皆さんをハイタッチで送り出していただきました。参加の小学生や指導者にとって、普段テレビ等で見ているトップアスリートとふれあい、一体感を得られ、良い思い出になったことと思います。

選手たちはフレンドシップパーティー終了後、ホテルに戻って夕食をとり、翌18日に各地に帰郷し解散となりました。

今回は、競技会終了後、新横浜プリンスホテルにおいて、指導者交流会という新たな試みを実施しました。競技が終了し、皆様疲れている中ではありましたが、この大会が交流大会であり、指導者の研修にも重きを置いていることから、指導者の方々の交流や情報交換を目的として実施をしました。希望制ではありましたが、100名を超える指導者の方々が参加し、アイスブレイクを皮切りに、テーブル毎にグループディスカッションや各地域の実情の意見交換を積極的に行っていました。選手達の交流だけでなく、指導者に向けたこのような活動を今後も続けていければ有意義な場となると強く感じました。

今年度、日清食品カップ都道府県大会には、計26,993人が参加しました。これだけの小学生が参加しているのも、各都道府県陸上競技協会の方々の見えない準備や努力の結晶であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

本連盟では都道府県大会に参加したすべての選手達が、記録への挑戦という陸上競技の魅力を感じ、興味を持ってもらえるようにと、一昨年より『My Record』として日清食品カップ都道府県小学生陸上競技交流大会の全リザルト（全国交流大会実施種目）を本連盟オフィシャルサイトに掲載しています。この取り組みが、参加した選手たちの今後の陸上やスポーツにおける土台や励みとなるように願っております。そして、自らの記録への挑戦や成長の足跡として活用していただければ幸いです。

来年はいよいよ、第40回目の大会を迎えます。こうして大会が開催できることに感謝し、改めて大会開催の基本理念（楽しさ・交流・研修を中心に考える）を踏まえながら、「アスリート・センタード」を第一義とし、指導者の皆様の忌憚の無いご意見等を頂戴しつつ、更に良い大会にしたいと考えております。今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、ご後援いただきましたスポーツ庁、横浜市、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団、公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団、読売新聞社、ご協賛いただきました日清食品ホールディングス株式会社、ご協力いただきましたアシックスジャパン株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、ミズノ株式会社、会場を提供いただいた日産スタジアムをはじめ多くの関係各団体・各位に対し、心から感謝申し上げます。日清食品カップ 第39回全国小学生陸上競技交流大会の報告といたします。

## 謝辞

本大会の開催にあたり、主管いただきました神奈川陸上競技協会役員・競技審判員・普及部の皆様、補助員として協力頂きました関東学生陸上競技連合、亜細亜大学、神奈川大学、東京経済大学、東京理科大学、成蹊大学、拓殖大学、東京大学、帝京大学、立正大学、玉川大学、創価大学、東京農業大学の陸上部の学生諸君に対し、心から厚くお礼申し上げます。

# みんなでつなごうリレーフェスティバル2023 (リレフェス) 大会報告

【期日】 2023年10月7日(土)・8日(日)

【場所】 国立競技場



## 【実績】

～実施種目 全14種目～

### ◇公認の部

U16都道府県代表4×100mR / 一般4×100mR

### ◇非公認の部

200歳以上リレー / 競技団体対抗リレー  
スポンサー対抗リレー / ウォーキングリレー  
もっと気軽にリレー / 電車になって走ろうリレー  
誰でもチャレンジリレー / 家族リレー  
小学生リレー / 中高生リレー  
仮装リレー / Night of the mile(4×400mR)  
※日本選手権リレー同時開催

～参加人数～

### ◇する人(同時開催の日本選手権リレーを含む)

1日目 3,010人 / 2日目 2,640人

### ◇みる人(観客、チームスタッフなど)

1日目 3,800人 / 2日目 4,500人

### ◇支える人(ボランティア、東京陸協など)

1日目 550人 / 2日目 550人

## ◆みんなが“笑顔”になれるイベントを目指して

日本陸連の中長期計画(JAAFビジョン)では、2040年までにアスレティックファミリーを300万人とする目標を掲げています。子どもから大人まで、日頃から陸上を楽しむ人も、まだ親しみのない人も、多くの人が楽しめる『ウェルネス陸上の実現』を目指す中で、本イベントはその“きっかけ”を作る役割を果たすことをねらいとしています。

リレフェスは昨年誕生し、今年で2回目の開催となります。舞台は、東京五輪が開催され、2025年には東京世界陸上の開催が決定している「国立競技場」。東京五輪のレガシーが、2025年、そしてその先の未来へとつながるようにという願いも込められています。

## ◆リレフェスの世界観はみんなで創る

最近歩き出したばかりの小さなお子様、昔陸上競技を楽しんでいた元アスリート、健康のために走り始めたご年配の方、身体の不自由な方、陸上競技場に初めて入っ

た人…今年も様々な参加者と出会い、たくさんの表情、感情に出会うことができました。

リレフェスの世界観は、“みんなで創る”ことを意識しています。種目を公募してみたり、日本代表選手にサポートの依頼をしたり、昨年のリレフェス後に実施したアンケート結果からも、たくさんのアイデアをいただきました。それら一つ一つの声と、競技会ではなくフェスティバルなんだ!という感覚と、参加者の“笑顔”が融合し、よりリレフェスらしい温かな世界観が醸成された2年目でした。

## ◆舞台を支えるボランティアチーム

たくさんの笑顔を支えたのは、230名を超えるボランティアチームの皆さんでした。当日は、受付、招集、カメラマンなど全60の部署にわかれて、幅広く活躍しました。リレフェス前には、ボランティア向けのオンライン説明会を行い、活動の心得や業務内容について理解を深めたいと参加いただいたことが、当日のスムーズな運営につながったと感じています。

国内の大会では、マラソンや駅伝などのロードレースを除くと、審判・補助員による運営形態が主流ですが、日本GPシリーズなどでも少しずつボランティアの皆さまの活躍が目立ってきました。陸上の大会やイベントが、さらに多くの方々に楽しんでいただけるように、そして運営するスタッフも共に楽しめるように、審判・競技役員とボランティアの皆さまと一緒に、新しい運営の形を模索していきたいと考えています。

## ◆未来へつなぐバトン

今年もバトンをつないでくれた皆さま、笑顔をつないでくれた皆さま、本当にありがとうございます。日常とはひと味違う感動体験に“笑顔”があふれた国立競技場。これからも、する人・みる人・支える人(アスレティックファミリー)が1年に一度集まる場として、毎年その輪が大きくなり強く結びついていくことを願っています。

リレフェスに関わるすべての人々の笑顔、熱い声援、温かなアドバイスによって、成長を続けるリレフェスが今年も無事に終了しましたことを、心より感謝申し上げます。

## リレフェス特設サイト

笑顔溢れる振り返り動画や参加者のコメント、写真などを公開しています。是非、ご覧下さい!



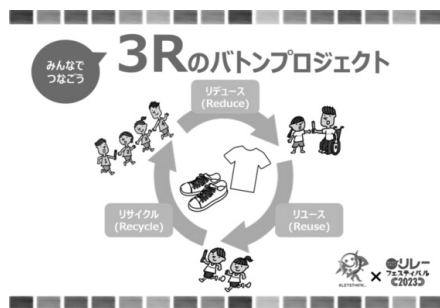
<https://www.jaaf.or.jp/relayfes/>

～今年も国立で、未来へつながる笑顔が生まれる～



# みんなでつなごうリレーフェスティバル2023 SDGs報告

## ■ 3Rのバトンプロジェクトを実施



10月7日(土)・8日(日)に国立競技場で開催しました「みんなでつなごうリレーフェスティバル2023」(以下、リレフェス)の中で、今年も「3R(スリーアール)のバトンプロジェクト」を実施いたしました。

昨年本連盟では、陸上を通してSDGsの達成と地域や社会への貢献を考えるプロジェクト、『#LETSTHINK』を立ち上げました。

3Rのバトンプロジェクトは、#LETSTHINK\_の取り組みの1つで、ゴミを減らす「Reduce(リデュース)」、捨てずにくり返し使う「Reuse(リユース)」、ゴミを資源にして再利用する「Recycle(リサイクル)」の3Rを実現するために、リレフェスにご参加いただいた方々や観戦にいらした皆さまから、まだ使えるけどサイズが合わなくなったTシャツや、使わなくなったスパイクなど、スポーツウェアやシューズを回収し、3つのルートで次の未来につなげていくという活動です。

## ■ 3つのルートで次の未来へ

事前のSNSの呼びかけと、会場大画面でのご案内もあり、多くの皆様に3Rのバトンプロジェクトブースに訪れていただきました。

お客様の中にはSDGsの取り組みに関する掲示を熱心にお読みいただく姿や、ご年配の方がお子様のスパイクを6足もお持ちいただいたり、クラブチームで訪れ、スパイクの試着をしてお持ち帰りいただくといった光景がとても印象に残ります。

皆さまからお預かりしたスポーツウェアやシューズは、一つ目のルートとして、リレフェスにご参加いただいた方や観戦にいらした方の中で必要とするものがあれば自由にお持ち帰りいただき、リユースされます。

お子様のスパイクがすぐに履けなくなってしまうので大変ありが



たい。というお客様からのお声もいただきました。

残りのアイテムは二つ目のルート、物資を必要としている世界中の施設・団体(NPO法人ワールドギフト)にお送りしてリユースされるほか、三つ目のルートであるアシックスジャパン株式会社のGREEN BAG PROJECTによってアシックスジャパン(株)が作製している100%リサイクル素材のエコバッグ(GREEN BAG)(※)の一部に生まれ変わる予定となっております。

※GREEN BAG (<https://www.asics.com/jp/ja-jp/mk/greenba>)は、アシックス直営店とアシックスウォーキングの全店(一部アウトレット店舗除く)で販売されており、その収益金の一部は、子どもの健全な育成を目的とした「ONE FUTURE PROJECT」の活動に活用されています。

## ■ 活動を終えて

今回の3Rバトンプロジェクトは昨年に比べて入口から遠いブースで行われたにも関わらず、多くの皆様にお越しいただきSDGsに触れていただくことができました。

廃棄予定だった衣類品が、次に必要とする方のもとに届いたり、資源となって新しいものに生まれ変わる。この活動に携わって、今使っているものの次の未来を意識することで、ものを大切に使用したり、誰かが使っていたものを使わせていただく感謝の気持ちや、再利用していただくことへの感謝も生まれプラスループが生まれることがわかりました。この小さなループがCO<sub>2</sub>を減らし、やがて地球環境を守ることにつながると信じて、私たちもこの活動をコツコツと積み重ねて行こうと改めて思った次第です。

今回ご協力いただきました皆様ありがとうございます。

来年も是非、「3Rのバトンプロジェクト」へのご協力をよろしく願いたします!

お預かりしたアイテムの出入り実績		スポーツウェア	スポーツシューズ	計
10月7日(土)	お預かり	18	14	32
	お持ち帰り	10	2	12
10月8日(日)	お預かり	14	1	15
	お持ち帰り	15	6	21
計	お預かり	32	15	47
	お持ち帰り	25	8	33
	残り	7	7	14

<実施日> リレフェス内  
2023年10月7日(土)・8日(日)  
<実施場所>  
国立競技場1階コンコース(Bゲート付近)  
<回収するもの>  
スポーツウェア、運動靴、スパイク  
<協力>  
アシックスジャパン株式会社  
※GREEN BAG PROJECTのみ

# 理事会報告

## 第86回理事会

日時：2023年9月20日（水） 13時33分～16時03分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

日本陸上競技連盟会議室

開催方法：WEB会議システムを用いて開催

### 【議事内容】

理事総数30名中出席者26名にて、理事会の成立を鈴木事務局長が報告。

尾縣会長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

### <報告事項>

#### 1. ブダペスト2023世界陸上競技選手権大会報告

山崎強化委員長より資料に基づき、2023年8月19日から8月27日まで開催されたブダペスト2023世界陸上競技選手権大会の報告がされた。

報告の概要は以下の通り。

・日本代表選手団は男子48名、女子28名、計76名（1名の出場辞退者を含む）で臨み、この選手団の人数は、自国開催の1991年東京大会及び2007年大阪大会を除いて、海外で実施される世界大会としてはオリンピック、世界選手権を通じて史上最多であり、一昨年の東京オリンピック、昨年のオレゴン2022世界選手権をさらに上回る選手団を構成することが出来たことは、近年の参加資格システムを考慮すると、ここ数年の国際競技力の底上げが続いている成果であると考え。

・メダルは金1、銅1、入賞は11個獲得し、メダルテーブルでは15位、プレイングテーブルでは11位（37ポイント）の成績を取めた。昨年のオレゴン大会では、メダルが4、入賞が5、メダルテーブル9位、プレイングテーブルでは11位（40ポイント）で、今大会では、メダルの数は減ってしまった一方で、入賞数を倍増することによって、プレイングテーブルで同順位に到達したことから、トラック&フィールドの様々な種目で世界に挑んでいける新しいチーム構成、新たな選手層による成果であると言える。ただ、プレイングテーブルで目標としている世界トップ8に入っていくためには、順位としてはあと1つ（ただし単独8位にはあと3つ）であり、ポイントとしては+10～15ポイント、50ポイント以上の獲得が必要であることが示されており、国際大会におけるメダル・入賞を目指していける層のレベルを安定させていくことを意図した強化が不可欠と考える。

### <協議事項>

#### 1. 2024年度第108回及び2025年度第109回日本選手権・混成競技/U20日本選手権・混成競技の開催地

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、2024年度第108回及び2025年度第109回日本陸上競技選手権大会・混成競技兼U20日本陸上競技選手権大会・混成競技の開催地に主管を岐阜陸上競技協会として岐阜県岐阜市の岐阜メモリアルセンター長良川競技場とすることが原案通り承認された。

#### 2. 2024年度第108回日本陸上競技選手権大会・10000m開催日程

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、2024年度第108回日本陸上競技選手権大会・10000mの開催日程場所の決定について、開催日程は2024年4月下旬から5月上旬、開催場所は日本グランプリシリーズのいずれかの大会との同日開催で調整することで、専務理事承認事項として開催地との調整が済み次第発表することが原案通り承認された。

#### 3. 2024年度主要競技会日程

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、2024年度主要競技会日程が原案通り承認された。

#### 4. パリ2024オリンピック競技大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項

5. パリ2024オリンピック競技大会競歩種目日本代表選手選考要項  
山崎強化委員長より資料に基づき説明があり、パリ2024オリンピック競技大会のトラック&フィールド種目日本代表選手選考要項及び競歩種目日本代表選手選考要項が原案通り承認された。（本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/> 参照）

### <報告事項>

#### 2. グラスゴー2024世界室内陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項

山崎強化委員長より資料に基づき、グラスゴー2024世界室内陸上競

技選手権大会日本代表選手選考要項が報告された。（本連盟WEBサイト[https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202309/20\\_192113.pdf](https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202309/20_192113.pdf) 参照）

#### 3. 公認記録となる種目（公認種目）の設定（経過報告）

平野事業部長より資料に基づき、公認記録となる種目（公認種目）の設定について、経過報告がされた。公認競技会、公認記録の要件については、公認競技会規程並びに公認記録規程を初めとする諸規程で定められているが、公認記録となる種目が明確になっておらず、競技運営委員会、施設用器具委員会間でも認識が完全に一致するとは言えない状況であった。これまでは諸記録が十分に信頼し得るようという観点から、各年代カテゴリーの日本記録で定められている種目が実施できるように検定を行ってきたが、最近では、オリンピックで急遽追加されたマラソン競歩混合リレー、ワールドランキングの対象になるような2マイルを実施する競技会も出てきており、日本記録として定められていない種目を実施する場合、ルール上検定の対象とならないということになっており、ルールそのものの見直しも必要になってきている。今後、施設用器具委員会、競技運営委員会とも相談の上、公認種目として設定する種目について、公認種目とするのに必要な検定は何か等の規定も整備し、2023年12月の理事会に再度提案することが報告された。

#### 4. 特定寄付金に関する報告

田崎専務理事より資料に基づき、7月に北海道の5都市で開催したホクレン・ディスタンスチャレンジ2023での電子ペーサーを導入するためのクラウドファンディングの結果が報告された。延べ534名（実人数500名）の方から総額503万7,000円の寄付を頂き、第1目標額の300万円を大きく上回り、次の目標額とした500万円にも到達し、これにより、シリーズの全5大会で電子ペーサーを導入でき、多くの選手が自己ベスト記録を更新する等、レベルの高い競技環境を整えることが出来たことを報告し、感謝を述べた。

#### 5. 代表理事及び業務執行理事の業務分掌

尾縣会長より資料に基づき、代表理事2名、業務執行理事8名の業務分掌が報告された。

##### 代表理事

会長：尾縣貢／法人の業務の総理

副会長：有森裕子／国際連携・交流の推進に関する事項

##### 業務執行理事

副会長：風間明／東京2025世界陸上に関する事項

副会長：室城信之／行政との連携に関する事項

専務理事：田崎博道／法人の業務の掌理、組織体制と運営に関する事項、事務局の事業及び管理業務に関する事項、危機管理に関する事項、加盟団体と協力団体との連携に関する事項

常務理事：坂本修一／協力団体との連携に関する事項

常務理事：内山了治／加盟団体との連携に関する事項

常務理事：清水真／法務、コンプライアンスに関する事項

常務理事：來田享子／陸上界の多様性に関する事項

常務理事：山崎一彦／選手強化に関する事項、アスリート育成及び指導者養成に関する事項

#### 6. 新規プロジェクトの立ち上げ

鈴木事務局長より資料に基づき、3つの新規プロジェクトの立ち上げが報告された。

##### ・東京2025世界陸上

2025年に迎える世界陸上への対応と、世界陸上を機会にした事業等についての検討

##### ・学校部活動の地域移行

公立中学校の部活動の地域移行に伴う影響について、実態や課題を把握し、本連盟や陸上界としての対応についての検討

##### ・公認競技場・競走路・競歩路

全国各地の陸上競技場・競走路・競歩路が公認されるための要件や、検定の方法等についての検討

#### 7. 代表理事、業務執行理事の職務遂行状況

尾縣会長及び田崎専務理事より資料に基づき、2023年3月27日から2023年9月20日までの職務遂行状況が報告された。

# 大会観戦ガイド

## 福岡国際マラソン2023 兼 マラソングランドチャンピオンシップファイナル チャレンジ～パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会～

- ▼期日：2023年12月3日(日) 12時10分スタート
- ▼コース：福岡国際マラソンコース(平和台陸上競技場・大濠公園～福岡市西南部周回～香椎折り返し) 42.195km  
※マラソンの他に、15km、20km、ハーフ、25km、30kmの記録が公認される。ただし、完走した競技者が対象
- ▼アクセス：(平和台陸上競技場) 地下鉄「赤坂」「大濠公園」下車 徒歩8分 西鉄バス「福岡城・鴻臚館前」「福岡市美術館東口」「大手門・平和台陸上競技場入口」下車 徒歩5分～8分「赤坂3丁目」下車 徒歩10分 都市高速「天神北ランプ」「西公園ランプ」より約3キロ(園内に駐車場あり)
- ▼問合せ先：福岡国際マラソン実行委員会事務局  
〒810-0053 福岡市中央区鳥飼3丁目3-12  
TEL：092-733-8911  
E-mail：info@fukuoka-international-marathon.jp
- ▼大会ページ：  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1790/>



写真：フォート・キシモト

## 第107回日本陸上競技選手権大会・10000m 兼 パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手 選考競技会 兼 メドゥリン2024 世界クロスカント リ選手権大会日本代表選手選考競技会

- ▼期日：2023年12月10日(日)
- ▼会場：国立競技場(東京都新宿区霞ヶ丘町10-1)
- ▼種目：男子10000m / 女子10000m
- ▼アクセス：JR総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅 / 信濃町駅：徒歩5分  
都営大江戸線 国立競技場(A2出口)：徒歩1分  
東京メトロ銀座線 外苑前駅(3番出口)：徒歩9分

- ▼問合せ先：【日本陸上競技連盟・事務局】  
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN  
SPORT OLYMPIC SQUARE 9階  
TEL：050-1746-8410(土・日祝日を除く10:00～18:00)
- ▼大会ページ：  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1749/>



写真：フォート・キシモト

## 令和5年度全国中学校体育大会 第31回全国中学校駅伝大会

- ▼期日：令和5年12月17日(日)
- ▼コース：女子の部スタート 11時10分 男子の部スタート 12時15分
- ▼会場：滋賀県希望が丘文化公園 スポーツゾーン芝生ランド
- ▼種目：(1) 一校単位(一団体単位)で編成されたチームで女子と男子の部とする。  
(2) 女子の部 5区間12km 第1区3km 第2区2km 第3区2km 第4区2km 第5区3km  
(3) 男子の部 6区間 18km 第1区3km 第2区3km 第3区3km 第4区3km 第5区3km 第6区3km
- ▼アクセス：JR琵琶湖線 野洲駅南口より近江鉄道バス・希望が丘西ゲート経由「花緑公園行」または「村田製作所行」で約10分
- ▼問合せ先：<大会開催前> 〒520-0807 滋賀県教育委員会保健体育課分室内 全国中学校駅伝大会 実行委員会事務局 TEL：077-535-9080 FAX：077-535-9081  
E-mail:ekiden-shiga@office.eonet.ne.jp  
<大会期間中>(直前の12月1日(金)～15日(金)含む)  
〒520-2321 滋賀県野洲市北桜978番地 希望が丘文化公園内 令和5年度 第31回全国中学校駅伝大会滋賀県実行委員会大会本部 TEL：080-8303-7874 FAX：077-535-9081
- ▼大会ページ：  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1788/>

事務局からのお知らせ

◆◆日本選手権10000m大会キービジュアル・特設サイト公開！  
～12月10日は「最高の25周」に向けて全員が「Challenge」する1日へ～◆◆

2023年12月10日(日)に国立競技場で開催される「第107回日本陸上競技選手権大会・10000m」の大会キービジュアル・特設サイトが完成いたしましたのでお知らせいたします。

本大会は「パリ2024オリンピック」日本代表選手選考競技会を兼ねており、「世界」への挑戦が始まります。

▼日本選手権10000m特設サイト

<https://www.jaaf.or.jp/jch/107/10000m/>



◆◆日本選手権10000mチケットページを  
公開しました！◆◆

日本選手権10000mの各種チケットの受付期間は10月26日(木)～12月10日(日)です。ぜひ国立競技場にご来場ください！

▼チケットページ

<https://www.jaaf.or.jp/jch/107/10000m/ticket/>



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 尾縣 貢 (陸連会長)
- 有森 裕子 (陸連副会長)
- 風間 明 (陸連副会長)
- 室城 信之 (陸連副会長)
- 田崎 博道 (陸連専務理事)
- 山崎 一彦 (陸連強化委員長)
- 鈴木 英穂 (陸連事務局長)
- 石井 亮 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 石井 朗生
- ◇時報編集担当
- 日本陸連 広報課

陸連時報編集室

〒160-0013  
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2  
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階  
日本陸上競技連盟内  
TEL : 050-1746-8410  
FAX : 050-3588-1869